

## 千走川から放流した標識サクラマスの再捕報告

ト部 浩一・青山 智哉・宮腰 靖之

後志管内さけ・ます資源対策協議会では、サクラマス資源の効率的な増殖を進めるため、平成 20 から 21 年にかけて鱸(ひれ)を切り取った標識魚(稚魚、秋幼魚、スマルト：表 1)を千走ふ化場(後志総合振興局管内 島牧村 千走川)から放流しました。それらの標識魚は平成 22 年に北海道沿岸に回帰し、漁業や釣りによって採捕されることから、平成 22 年 1 月から 6 月にかけて『後志管内の漁業者の方々』、『後志管内さくらます船釣りライセンス制に参加されるの方々』、『島牧村沿岸で釣りをされるの方々』にご協力いただき、標識サクラマスの情報の収集を進めてきました。また、島牧漁協および島牧村の全面的な協力を得て、千走川に遡上したサクラマスについても捕獲調査を行い、標識の確認を行いましたので、その結果についてご報告します。

### 漁業関係者からの報告

後志総合振興局管内の漁業協同組合担当者の皆さんから全面的にご協力をいただき、平成 22 年 3 月から 6 月にかけて、各漁協の市場に水揚げされたサクラマスの一部を対象に標識確認調査を実施しました。調査では合計 3,347 尾のサクラマスについて標識の確認を行い、その結果、合計 57 尾の標識サクラマス(千走ふ化場以外にさけますセンター、さけます・内水面水産試験場道南支場から放流された標識魚を含む)が確認され、そのうち、44 尾が千走ふ化場から放流された標識魚でした。千走川から放流した標識魚の内訳は春稚魚放流の魚が 97.7%、秋幼魚放流の魚が 2.3%、スマルト放流の魚が 0%でした。

### 後志管内さくらます船釣りライセンス制参加者からの報告

平成 22 年にライセンス制に登録された方々 266 名のうち、40 名の方から調査票を提出いただきました。提出いただいた調査票に記載された釣獲数を合計すると 566 尾になりました。そのうち、標識の有無の確認が行われている魚の数は合計 330 尾で、そのうち 5 尾が標識魚でした。なお、ライ

センス制を対象とした調査では、遊漁者の方に配布する調査票が複雑になり過ぎないように、千走ふ化場以外の場所から放流された標識サクラマスは報告対象としていません。千走川から放流した標識魚の内訳は春稚魚放流の魚が 80.0%、秋幼魚放流の魚が 0%、スマルト放流の魚が 20.0%でした。

### 島牧村周辺海岸での遊漁者(陸釣り)からの報告

平成 22 年 1 月から 5 月にかけて、島牧村沿岸で、海岸からサクラマス釣りをを行う方々にご協力いただき、アンケート形式の調査を実施した結果、合計 13 名の方(電話報告を含む)から回答が得られました。また、6 名の方には、調査協力員として、シーズン通期にわたっての調査報告をいただきました。これらの結果、合計で 100 尾のサクラマスについて、標識確認が行われ、18 尾に鱸切り標識が確認されました。そのうち 12 尾が千走ふ化場から放流された標識魚でした。千走川から放流した標識魚の内訳は春稚魚放流の魚が 83.3%、秋幼魚放流の魚が 0%、スマルト放流の魚が 16.7%でした。

### 千走川に遡上したサクラマスを対象にした調査

平成 22 年 8 月から 9 月にかけて、千走川に遡上したサクラマスを捕獲し、標識の確認を行いました。調査では、77 尾のサクラマスが捕獲され、そのうち 29 尾に標識が確認されました。千走川から放流した標識魚の内訳は春稚魚放流の魚が 31.0%、秋幼魚放流の魚が 3.4%、スマルト放流の魚が 65.5%でした。漁業、ライセンス制、島牧村周辺海岸での結果と異なり、スマルト放流の魚の割合が最も高くなっていました。

### まとめ

以上のように、漁業、遊漁での情報に加え、千走川に遡上したサクラマスからも情報を得ることができました。その結果、河川遡上した標識魚についてはスマルト放流の割合が高くなっていましたが、それ以外の調査では春稚魚放流した魚の割

合が高いことが明らかになりました。サンプルの抽出率が低く、また、秋幼魚放流とスマルト放流した標識魚の標本数が少ないことから、どの放流方法によりどれくらいの資源が作られているのかということをはっきりさせることは容易ではありませんが、複数の放流方法を採用している孵化場から放流されるサクラマス全ての標識を付け、漁業と遊漁の両方を対象に再捕調査を行った事例は今回が初めてのことで、サクラマス資源の増殖を進める上で、大変貴重なデータが得られました。今後、さらに調査・分析を進め、サクラマス資源の向上に向けた取り組みを進めていきますので、これからも皆さまのご協力をお願いします。

謝辞

この調査には、後志管内さけ・ます資源対策協議会、島牧漁業協同組合、寿都町漁業協同組合、岩内郡漁業拳動組合、古宇郡漁業協同組合、東しゅこたん漁業協同組合、余市郡漁業協同組合、島

牧村役場、水産総合研究センターさけますセンター、後志管内サクラマス船釣りライセンス制に参加された方々、後志管内サクラマス船釣りライセンス制実行協議会事務局、後志総合振興局産業振興部水産課、石狩・後志海区漁業調整委員会の皆さん、島牧村周辺海岸でサクラマス釣りをされている方々、あめますダービーin島牧大会実行委員会事務局、島牧商工会、島牧村内の調査票設置・回収の対応をいただいた飲食店・宿泊施設の皆さんには多大なご協力をいただきました。また、島牧村周辺海岸でのサクラマス釣りを対象とした調査では、海雨三郎さん、佐藤亨さん、清水慶介さん、原田清之さん、マスノスケさん、匿名の釣り人1名の方に調査協力員として、通期にわたる調査にご協力いただきました。伊瀬智さんと山崎さんからは電話での再捕報告をいただきました。フィッシングジャーナリストの西井堅二さんには、釣りを対象とした調査の広報についてご協力いただきました。心よりお礼申し上げます。

表1 標識放流の詳細

	放流方法		
	春稚魚	秋幼魚	スマルト
系統	森尻別(珊内回帰 F3)	森尻別(珊内回帰 F3)	森尻別(珊内回帰 F3)
放流方法	春稚魚	秋幼魚	スマルト
放流年月日	平成20年6月11日	平成20年10月24日	平成21年5月11日
放流数(尾)	125,000	60,000	46,035
標識部位	脂鱗	脂鱗+左腹鱗	脂鱗+右腹鱗
体長(cm)	-	-	14.8
体重(g)	3.6	15.0	37.5

(うらべ ひろかず：さけます資源部研究主任)  
 (あおやま ともや：さけます資源部主任研究員)  
 (みやこし やすゆき：さけます資源部主査)